

令和3年度 学校評価 検証 改善方策

菊川市立菊川東中学校

1 生徒アンケート結果 (第4ステージ終了時、最新のステージアンケート結果)

問	質問内容	R2	R3	(目標)
1	学校が楽しい。	89%	93.2%	(90%)
2	みんなで何かをするのは楽しい。	95%	94.8%	(90%)
3	授業に主体的に取り組んでいる。	87%	93.5%	(90%)
4	授業がよく分かる。	82%	86.8%	(85%)
5	時と場を考えた挨拶や言葉遣いをすることができた。	97%	95.4%	
6	「躍動チャレンジ」に向けて学習した。	75%	80.0%	
7	仲間や学級のために進んで行動することができた。	90%	90.4%	
8	学校に、信頼することのできる先生がいる。	86%	89.8%	(85%)
9	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	62%	72.6%	(70%)
10	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	86%	91.0%	(85%)
11	授業では、コンピュータなどのICTを活用している。	79%	98.2%	(90%)
12	わたしには、よいところがある。	74%	84.6%	(80%)
13	わたしは、だれか(クラスの人や家の人)の役に立っている。	72%	81.2%	
14	「自ら気づき 行動する」ことができた。	79%	87.7%	(85%)

(1) 「わたしには、よいところがある」(84.6%)について

本校の教育実践4本柱の一つが、「自己肯定感の向上」である。その指標が「わたしには、よいところがある。」であり、自己肯定感の高い生徒の育成を目指し、全教職員で取り組んだ。その結果、昨年度は**74.2%**であった数値が、今年度は**84.6%**まで向上した。これは様々な取組による成果であるが、とりわけ以下の2つに力を入れた。

一つ目は「称揚のボイスシャワー」である。全教職員で生徒を積極的に称揚するとともに、日常のあらゆる場面で認め励ました。また、生徒同士でも声をかけ合ったり、認め合ったりする雰囲気作りに取り組んだ。

二つ目は「躍動賞の授与」である。生徒が、学校全体の目標『自ら気づき→行動する』を継続して実践した際に授与する賞である。表彰式は毎週、全校テレビ放送で行い、結果は躍動賞コーナーに掲示する。学校ニュースでも紹介し、2月末70名の生徒を表彰している。

躍動賞の授与は、称揚のボイスシャワーとも関係し、教職員や生徒がお互いの良いところを見取り、ほめるきっかけとなっている。例えば、「素晴らしい挨拶を継続して行っている生徒は、その場でほめられ、学級でもほめられる。全校放送で紹介され、周りの仲間にもほめられ、賞状を持ち帰り家族からもほめられる。」このような取組が、日常の様々な場面で見られ、自己肯定感の向上に繋がったと考える。

(2) 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」(72.9%)について

生徒アンケートで多くの項目は、80%を超えている中、この項目は若干低い回答となっている。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、地域や社会活動へ目を向ける機会が少なくなった。来年度は、総合的な学習の時間において、市内企業の皆さんの講話を聞いたり、職場体験をしたりして、より積極的に地域へ目を向ける機会を設けたい。そして、菊川市のために自分たちができることを考え、提案するような活動を取り入れたい。

2 保護者アンケート結果

問	質問内容	R2	R3
1	明るく元気に登校している。	91%	92%
2	家庭学習の習慣が身についている。	62%	74%
3	規則正しい生活をしている。	80%	80%
4	社会や学校のルール・マナーを守って生活している。	96%	97%
5	授業に主体的に取り組んでいる。	92%	94%
6	だれにでもあいさつができる。	88%	90%
7	仲間や学級のために進んで行動している。(行事、生徒会、清掃など)	92%	96%
8	生徒は「わたしには、よいところがある」と感じている。	87%	89%
9	学校は教育方針、生徒・学校の様子を保護者に分かりやすく伝えている。	92%	94%
10	教員は生徒の心配や悩みに気づき、積極的に相談に応じている。	87%	90%
11	教員は分かりやすい授業になるように努力している。	88%	95%
12	教員は、生徒の良い取組を見取り、称揚している。	95%	95%
13	学校に信頼することができる教員がいる。	90%	92%

(1) 「学校は教育方針、生徒・学校の様子を保護者にわかりやすく伝えている」(94%)について

本校は学校経営のキーワードとして「情報発信」を掲げ、積極的に行っている。年度初めには、グランドデザインを保護者に配布し、本校の『目指す学校像』を周知した。また、コロナ禍で授業参観会の機会が少なくなったが、学校ホームページを通じて、生徒や学校の様子を知ってもらうよう努力している。

特に、東中ニュースは毎日更新し、昼の放送で内容を紹介している。お家の方と一緒に見るように呼びかけ、家族の話題のきっかけになればと考えている。保護者アンケートでは、「東中ニュースを楽しみにしている」というコメントがたくさん寄せられた。

その他にも、広報菊川や新聞記事に取り上げてもらうことで、外の目から見た本校教育を地域や保護者に知っていただく機会を積極的に設けている。

(2) 「保護者のコメント欄」より → 地域の皆様へのあいさつと交通安全について

保護者アンケートで「朝の通勤中、横断歩道に生徒がいたので停止すると、渡り終えた後に頭を下げる姿を見て、すがすがしい気持ちになった。」といったコメントをいただいた。さらに、地域の方へ積極的にあいさつ等ができる生徒を育成し、目指す学校像に迫りたい。

一方、「下校時に、道いっぱいに広がって歩く生徒がおり、車で通るとき危険を感じた。」というように、生徒の交通マナーを心配する声が届いている。このような件については、迅速な対応を心がけ、該当地区の生徒を指導したり、交通安全を呼びかけたりしている。また、定期的の下校指導を実施している。市内で起こった交通事故は記憶に新しく、交通安全指導は気を緩めることなく、年度当初から計画的、継続的に進めていく。

3 学校評議委員より

2月上旬に学校評議員会を行った。授業参観後、各委員から本年度の取組と今後に向けて様々なご意見をいただいた。

(1) 「学校経営の成果と学校評価」について

- ・生徒の様子や校内掲示から、グランドデザイン通りの学校経営が実践されていることがよく分かる。
- ・ほとんどの成果指標において、昨年度や目標値を上回っており、学校が一丸となって取り組んでいることが伺える。
- ・特に、「わたしには、よいところがある」「自ら気づき行動することができた」に対する取組が具体であり、大きな成果に結びついていると感じる。

(2) 「生徒の様子等」について

- ・コロナ禍で、生徒の気持ちが沈んでいないかと心配していた。しかし、東中生は元気に明るく学校生活に取り組んでいて、うれしい気持ちになった。
 - ・地域に住んでいて、元気よく挨拶をしてくれてうれしい。気持ちよい。
- また、本校の感染症対策に対し、「ここまで徹底して行ってくれていて安心するとともに、有り難い。」とねぎらいの言葉をいただいた。短時間の授業参観であったが、本校生徒の様子を知っていただくことができた。

(3) 「コロナ対応に係る学力保障」について

「地域でも陽性や濃厚接触者となり、学校を休んでいる生徒がいる。休んでいる生徒への対応はどうなっているのか。」という質問があり、以下のように回答した。

本校では、Google クラウドを活用し、「授業後の板書」「今日の授業のポイント」「プリント等の資料」を休んでいる生徒のタブレットへ情報提供している。今後は、さらに有効な学力保障を検討したい。

また、学校を休んでいる生徒が学習以外でも不安を抱かぬよう、全校生徒への啓発を継続する。

4 来年度に向けて

様々な成果があった今年度ではあるが、学力向上や不登校減少等については課題がある。今後は、以下の育成に教職員一丸となって取り組みたい。

- ・自ら課題を見つけ、より良い方法で解決する力
- ・相手を意識し、分かりやすく表現する力
- ・自分や仲間、家族を大切にしたり、思いやったりする優しい心
- ・健康な心身と、少々のことではへこたれないたくましい気持ち

